

「みんなが打席に立てる野球、みんなにチャンスが与えられる野球」



王 貞治氏

Sadaharu Oh
福岡ソフトバンクホークス 会長



photo by Kenshio Isumura

1980年に現役を引退し、翌年から指導者という立場で野球に生きてきたが、88年、一度ユニホームを脱ぐことになりました。プロの世界に入ってから30年、それ以前も含めたら、私の人生は野球そのもの。そんなことを振り返ったとき、自分育て上げてくれた、野球を通して社会に恩返しをしたいという気持ちになりました。

でも自分に何ができるのか。いろいろな話をすることで、まさに自分が学んできた野球の素晴らしさを、次代を担う子どもたちにも伝えていきたいと思うようになったのです。そして90年、野球を全世界に普及させていく「世界少年野球推進財団」の設立を意図しました。

アメリカ・メジャーリーグの本拠地、ニューヨーク・ヤンキースの共同親戚で始まったこの活動は、全世界の子どもを対象としています。アジアやアフリカなど地球上にはまだまだ野球を知らない国がたくさんある中で、もっと多くの人に野球を楽しんでもらいたいという気持ち

ちがっても強かったです。また、「みんなが打席に立てる」チャンスがある平たいと考えたからです。

私たちは年に1度、世界中の少年少女など、バットの振り方やボールの投げ方、盗塁、バント、内野・外野準備、スライディングといった野球の基礎を教えています。これまでに、インドネシアやフィリピン、ケニア、ウガンダ、ジンバブエ、アルゼンチンなど延べ86の国・地域から少年少女が参加しました。

また、開催地の文化や伝統に触れる交流事業にも力を入れています。というよりも、国際交流は、子どもたちにとっても意義深いものだと考えているからです。言葉が通じなくても、子どもたちは同年代というだけですぐ打ち解けて、仲良くなるんです。ああ、そこか。子どもにはこういう「場」を与えることがとても重要なんだと。野球という一つのスポーツで、子どもたちが世界とつながって視野を広げられる。なんて素敵

な感じでしょうか。

野球の力は偉大です。技術面はもちろんのこと、体が強くなる、力強くなる、自然とルールを守れるようになる、といった、今後の人生のプラスになる多くのことを学べます。また、困難も努力次第で克服できること、アウトセーフで克服できること、アウトセーフという経験も生きていく上で重要です。私も、身をもってこれを体験してきました。

世界少年野球大会で、自ら指導に当たることも ©WCBF

王氏が率いたWBC2006日本代表は見事優勝を果たした ©EPA-時事



世界少年野球大会では、自ら指導に当たることも ©WCBF



王氏が率いたWBC2006日本代表は見事優勝を果たした ©EPA-時事

おふくはる
1940年東京出身。早稲田農業高校卒業後、読売巨人軍に入団。22年の現役生活で数々の記録を残し、77年には初の国民栄誉賞を受賞。80年に引退後、読売巨人軍、福岡ダイエーホークス（現ソフトバンクホークス）の監督などを経て2009年に引退。日本代表が初代王者となったWBC2006の代表監督も務めた。

代名詞である一本足打法で通算ホームラン868本という前人未到の偉業を成し遂げ世界にその名をはせてきた、王貞治氏。記憶に深く刻まれた現役時代の活躍。そして、劇的な勝利で日本代表を初代王者に導いたWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）。世の人々にたくさんの夢と希望を与えてきた「世界の王」が地球の未来のために取り組むこと。それは、「誰にでもチャンスが与えられる野球」を広めていくというのだ。野球の素晴らしさを誰よりも知る王氏だからこそ世界に伝えること、伝えることができる。

平等にチャンスが めぐってくる!

熱戦に沸いたバンク・バー冬季五輪。その熱に浸る間も、いよいよ6月にはサッカードワールドカップ、南アフリカ大会が開催する。世界中が興奮の渦に包まれるスポーツの祭典が目前押し迫る今年2010年は、まさしく「スポーツ・イヤー」・日本国内も振興策が一気に上り止し、初夏の陽気が近づく今日、スポーツを思い切り楽しめるシーズンがやって来た。

スポーツの醍醐味はなんといっても爽快感。スポーツが好きなん人はもちろん、苦手な人でも一度は味わったことがあるはず。でも実際のところ、人を引き付けるスポーツは、私たちにどうとどんな

意味があるのだろう。

「目標に向かって日々努力するスポーツは、いわば人生の縮図」と話すのは、大阪大学大学院の岡田千寿希准教授。その過程でコミュニケーション能力を身に付けたり、ルールを守りフェアプレーに励むこと、人の大切さやフェアプレーの教えへのついで、勝負を遂げて通れなかった中で、勝ち上っていくこと、そのための努力の仕方など、対人・対社会との関係を徹底的に体験させるのがスポーツです。挫折もその後的人生に必ず役立っていく。

スポーツの力

人間力を育むもう一つの現場

人生一度は、スポーツに魅了されたことがあるだろう。そう、スポーツには多くの人の心を引き付けてやまない無数の可能性が秘められているのだ。そしてこの10年の間に、人づくりや国づくりの有効な手段と目玉とされてきたスポーツ。

その知られざるチカラとは、

編集協力 岡田千寿希 大阪大学大学院人文学部心理学教授



スポーツができること

3. 公衆衛生
医療費の削減や衛生環境の改善など公衆衛生問題への包括的アプローチを可能にする。

6. 経済開発
スポーツを通じて環境問題や生物多様性に関する意識が広がっている。特に、近年注目を集める「スポーツ・リスム」や自然資源の保護など開発分野との関係は深い。

9. 難民・国内避難民
スポーツを通じて難民・国内避難民へのスポーツを行うとともに、特に難民キャンプの多民族、多宗教、多言語の環境における融和を目的とした活動が行われている。

2. 健康
心身の健康の維持のみならず、人々が健康に対する興味・関心を持つきっかけとして期待されている。

5. 環境
スポーツを通じて環境問題や生物多様性に関する意識が広がっている。特に、近年注目を集める「スポーツ・リスム」や自然資源の保護など開発分野との関係は深い。

8. 民主的教育
民主主義の基礎となる他者への尊敬、寛容、公平などの考え方をスポーツから学ぶ。紛争の解決法を共に見つけるための訓練の場となっている。

11. ジェンダー
性別による差別や暴力、ハラスメントや暴力に対する問題意識の形成や課題解決を目指したスポーツ関連活動が行われている。

1. 教育
初・中等教育における心身のバランスのとれたスポーツや、青少年を取り巻く課題の解決にスポーツが広く活用されている。

4. HIV/AIDS
HIV/AIDSの予防教育、感染経路や症状に関する正しい知識の習得、エイズ発症者に対する偏見や差別の解消などがスポーツの場を活用して行われている。

7. 紛争解決
紛争中・紛争後に被害を受けた人々が、スポーツという構造化された場に参加することにより、緊張や暴力、トラウマといった問題の緩和が期待されている。

10. 平和構築
対立関係にある民族が互いを知り合う第一歩としてスポーツを通じた交流に期待が高まっている。

ンスが取れた成長に「スポーツ」は不可欠。その意味で「スポーツ」には、生活の満足度、Quality of Lifeを高める効果もあるのだ。

そして岡田さんは、スポーツに魅了された人々も可能性を指摘する。生まれ持った格差や境遇を一時的とはいえリセットできるのもスポーツのメリットです。貧富の差が大きく、地域によって特別な行為が数多く存在する開発途上国ほど、貧しい状況から抜け出すことはし



スポーツの優性を国づくりに応用する国際的動きは、この10年で高まってきている。きっかけとなったのは2000年、国連決議で教育、健康、開発、平和を推進する手段として「スポーツ」が採択されたこと。また、ミレニアム開発目標(MDG)を受け、開発

と平和のための「スポーツ」というレポートも国連から発表された。以来、国連をはじめ事務総長及び「スポーツ特使」が配置され、紛争・復興地域や貧困地域、難民キャンプなどで「スポーツ」活動を推進。カナダやノルウェー、オーストラリアなどの国々も「スポーツ」を通じた開発に積極的に取り組んでいる。

現在、スポーツ分野の国際協力は400事業にも上る。具体的にどんな支援ができるかは、右下の「スポーツができること」を見ればよい。スポーツが広範囲で驚くかもしれないが、スポーツにはそれだけの未知なる可能性が広がっているというのだ。

その中で日本は、JICAやボランティア、個人・集団・社会・国、どの段階において、人間が意欲と目と誇りを持って目標に向かうか、その姿勢こそが、希望ある国づくり、貧困のない社会への第一歩なのかもしれない。

スポーツはこんなふうに関わっている!

Bosnia and Herzegovina 紛争下の子どもの気持ちを—
1992年から3年に及んだボスニアヘルツェゴビナの内戦。市街戦で学校は閉鎖、家に居てもあった生活の末に生まれた「another war」(もう一つの戦争)。ストレスのたまった暮らしの中で家庭内暴力が横行したのだ。これを食糧不足から地方自治体は、特に外出が限られた子どもたちを対象にサッカーができる機会を提供。笑顔で思い切り芝の上を駆け回った子どもたちの表情はさすがに喜んでいる。そのもったいなかったという。



元駐米アメリカ大使
加藤良三
日本プロフェッショナル
野球組織コミッショナー
に聞く



「スポーツ」はセーフティネットの役割を担う

日本のODA(政府開発援助)は、釣った魚をあげる援助ではなく、魚の釣り方を教える。人間という「資産」をその国に創り出すことを大切にしています。その中で、技術を贈った人たちが将来、海外に出ていってしまわず、国内で活躍するための「セーフティネット」として、スポーツはその一翼を担うものだと考えています。草野球であれば老若男女、誰もが一緒に参加できる上、どんな状況でも必ず平等に順番が回ってくるのもその喜びや楽しさを分け隔てなくみんなが享受できる社会があれば、きっとそれは良い社会となつて、魅力ある国づくりにつながっていくと思います。

また、「人間学」を問う上でもスポーツが果たす役割は大変大きいでしょう。人間はもともと弱い生き物です。そうした人間の弱さを補う枠組みの代表格がスポーツだと思っております。スポーツで成功した人は、自分への自信を深め、責任感も強くなります。そして人格者となる場合が多い。ですから、自分の価値基準となる人間学を学ぶためにスポーツが重要になってくるのではないのでしょうか。